

「ともに生きること」の意味

中村 吉基 先生（日本キリスト教団新宿コミュニティー協会）

医療福祉ジャーナリズム分野 修士1年 今岡 康子

性的マイノリティと、パートナーと、牧師と編集者という仕事と…「ともに生きる」ことの意味を授業で学びました。

“ピーター”さんや“おすぎとピーコ”さんの時代ほどではなくなってきたと思いますが、まだまだ世の中の“多数派”が正統で物事の基準になり、“少数派”が差別や偏見を受ける社会なのだと思います。

配布された、“東洋経済 ONLINE”に載っていた「クリスチャンになった理由」を読みました。

「毎朝、一緒に聖書の一節を読むこと」

一緒にいても、離れていても、毎朝、聖書の一節を読むこと。その情景がドラマのように浮かび、お互いの心が通い合っていること、離れていてもお互いを思いやる様子が思い浮かび、胸がいっぱいになりました。心と心が繋がっている。パートナーとしてのあり方というか、向き合い方に感動し、私自身の体験と重ねてしまいました。

昨年、5年生存率約30%のがんと診断され、死を身近に意識しました。

その時に「神様はいないんだ。」と思いました。入院のため、仕事を休まなければならないので、理由を職場の上司に言うと「可哀想に」と言われ、そこで私は自分が「可哀想な人」なのだと気づかされました。

きっと悪気があって言ったのではないと思いますが、とても傷つきました。

（看護学校に勤務していたので、私も上司も看護師です。）

人生何が起こるかわかりません。

人生の危機は、「あなたにしか出来ない使命を与えてくれた」ということですね。

一生分の涙と、夫に支えられ、現在、治療がひと段落しました。今やりたいことをやる。そう思えるようになりました。パートナーに支えあい支えられることの意味も。

そんな中で、大切なパートナーを亡くした、ケンタロウさんの、その時の状況や気持ちが痛いほど伝わりました。

結婚式をすることで新しいスタートができたケンタロウさんにお会いできて、今、頑張っているということが聞けて、心から良かったと思いました。

授業では、お話しされませんでしたでしたが、ご両親を亡くされたことや、これまでのご自身の中の葛藤、様々な苦境に立たされ、“今”の生き方があるのだと思いました。

また、40代以降体調不良により「減速して生きよう」と話されていましたが、とても共感しました。(私も同年代なので)私も「無理をしない」と。

最後に、日本社会が発展すると同じように、日本人の心や考えも変えて行かなくてはならないと思います。

授業の中でお話されていたように、「100年前はこんな時代もあった」と過去の話になり、少しずつでも、色々な多様性がある人で構成されている社会として、自然な形で、生きやすい社会になっていくことが出来るように、益々のご活躍をお祈りいたします。

★-----*★*-----*★*-----*★*-----*★*

今岡康子様、

ゆきちゃん先生を通してレポートを拝見しました。

熱心な聴き手に支えられ、無事にお勤め(?)終了できましたことを感謝しております。

今岡さんもさぞお辛い日々であったでしょう。

でもご夫君の優しさや今まで気づかなかったことも発見できたのではないのでしょうか。

そして何よりも今生かされてある「喜び」ですね。

どうぞ与えられた「いのち」を十分に輝かせてください。

現在の今岡さんには他の人にはない「光」が備わっていることでしょう。

眩しくなるくらい輝かせてくださるようにお祈りしております。

ケンタロウさんが教会に来て、この1曲で慰められて力を取り戻して行かれました。

結婚式でも皆でこれを聴いたのですが、今岡さんにもプレゼントします。

「小さな祈り」という歌です。

<https://www.youtube.com/watch?v=yTyLafZeWX4>

どうぞお健やかに

出遇いに感謝いたします。

中村吉基

○○○○○○○○○○○○○○○○

わたしたちはひとりではありません

— We are not alone .

日本キリスト教団

新宿コミュニティー教会

URL:<http://sccmission.net/>

Twitter:@sccmission

○○○○○○○○○○○○○○○○